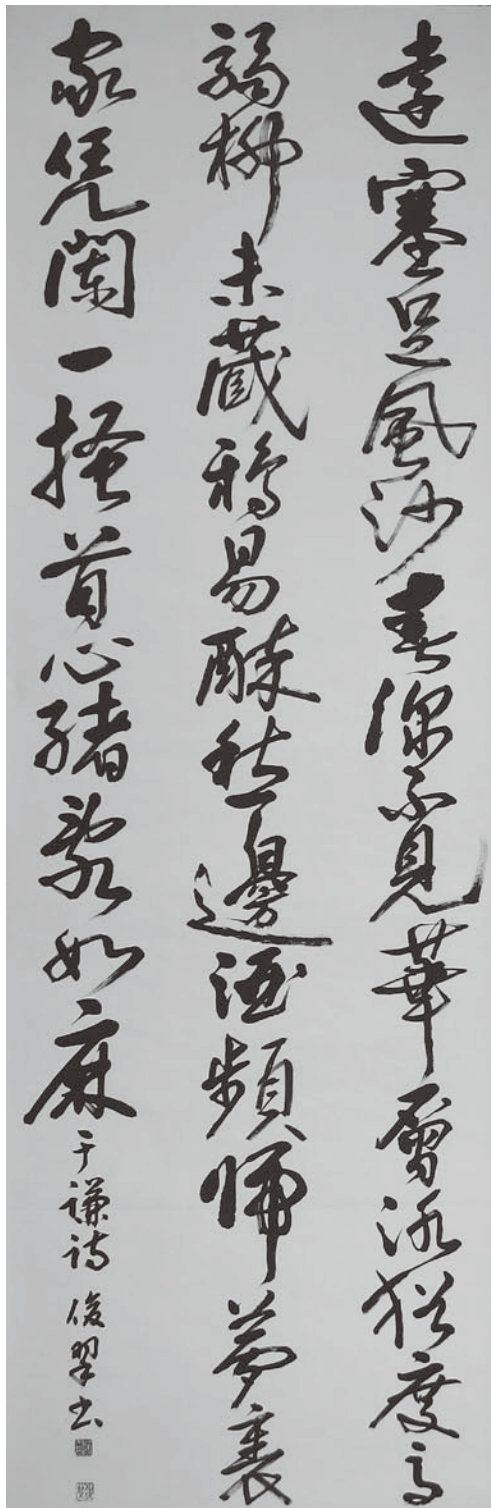


第2回

中央大学書道會

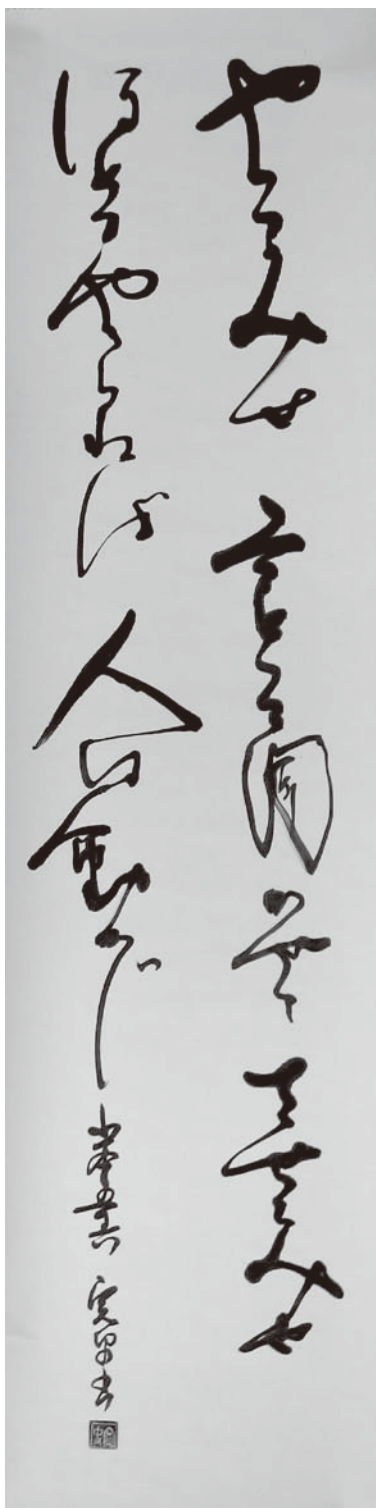
HAKUMON Chuo 書展

◎ 創作 「于謙」春日大風感懷」
法学部4年 鈴木俊太郎



書道とは、様々な古典の書を学んでいく中で自分なりの字を作り上げ、それをを用いて文字を書く藝術活動です。美とは何か、藝術とは何か、表象行為とは何か、その果てとしての人生とは何か等々、いろいろな論じ方はあると思いますが、心血を注いで書いた作品には視覚的な美だけではなく、えも言われぬ生命力の

◎ 創作 「山本五十六の詞」
法学部4年 齋藤寛史



山本五十六の詞です。これから先どんな立場であっても、人に対して真摯で誠実な人間でありたいです。

◎ 創作 「楷書千字文」 文学部4年 松倉実里

天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列张寒来暑往秋收冬藏閏餘成歲律呂調陽雲騰致雨露結為霜金生麗水玉出崑岡劔韞巨闕珠璣夜光珠李季葉重芥蒼
海鹹河淡鱗潛羽翔龍師火帝鳥官人皇始制文字乃服衣裳推位讓國有虞陶唐弔民伐罪周發殷湯坐朝問道垂拱平章愛育黎首臣伏戎荒遐遊壹體率賓歸王
鳴鳳在樹白駒食場化被草木穎及萬方益壯身髮四大五常恭惟鞠養豈敢毀傷女慕貞絜男效才良知過必改得能莫忘罔諉彼短靡恃已長信使可覆器欲難量
墨悲絲深詩讚羔羊景行維賢剋念作聖德建名立形端表正空谷傳聲虛堂習聽禍因惡積福緣善度尺璧非寶寸陰是競資父事君日嚴與敬孝當竭力忠則盡命
臨深履薄夙興溫清似蘭斯馨如松之盛川流不息淵澄取映容止若思言辭安定篤初誠美慎終宜令榮業所基藉甚無竟學優登仕攝職從政存以甘棠去而益詠
樂殊貴賤禮別尊卑上和和睦唱婦隨外受傳訓入奉母儀諸姑伯姊猶子比兒孔懷兄弟同氣連枝交友投分切磨箴規仁惠隱側造次弗離節義廉退顛沛匪虧
性靜情逸心動神疲守真志滿逐物意移堅持雅操好爵自縻都邑華夏東西二京背芒面洛浮渭攝汪宮殿警蔚樓觀飛鸞圖寫禽獸畫綵仙靈丙舍傍啓甲帳對楹
肆筵設席鼓瑟吹笙升階納陛弁轉疑星右通廣內左達承明既集墳典亦聚羣英杜康鍾隸漆書壁經府羅將相路俠槐柳戶封八縣家給千兵高冠陪輦殺振纓
世祿修富車駕肥輕策功茂實勒碑刻銘礪溪伊尹佐時阿衡奄宅曲阜微且執營桓公匡合濟弱扶傾綺理漢惠說感武丁俊又窻勿多士寔寧晉楚更霸趙魏困橫
假途滅輪踐土會盟何道約法韓弊煩刑起翦頗牧用軍寂精宣威沙漠馳譽丹青九州禹跡百郡秦并嶽宗恒岱嶺主云亭鷹門紫塞雞田赤城昆池碣石鉅野洞庭
曠遠綿邈巖岫杳冥治本於農務茲稼穡備載南畝栽藝桑稷稅熟貢斬勸賞黜陟孟軻敦素史魚秉直庶幾中庸勞謙謹勅聆音察理鑑貌辨色貽厥嘉猷勉其祗植
省躬識誠寵增抗極殆辱近耻林宰幸即兩疏見機解組誰逼索居閑處沈默寒求古尋論散慮道遠欣奏累違感謝歡招渠荷的歷園華抽條杞杞晚翠梧桐早彫
陳根委翳落葉飄颻遊鴻獨凌序絳宵耽讀運甌市富目囊箱易輟飲畏屬耳垣墻具膳滄飯適口充腸飽飯烹宰肌厭糟糠親戚故著老少異禮妾御績侍巾帷房
純扇圓潔銀燭輝煌晝眠夕寐藍菊象床絃歌酒誦接杯舉觴矯手頓足悅豫且康嫡後嗣續祭祀蒸嘗稽顙再拜悚懼恐惶賤賤簡要顧答審詳散垢想浴執熱願涼
驢驥特駭躍起驥誅斬賊盜捕獲叛亡布射遠丸播琴阮嘯恬筆倫鈞巧任鈞釋紛利俗並皆佳妙毛施淑姿工嘖研咲年矢每催義暉朗曜旒纓懸曉覽環照
指薪脩衽永綏吉劬矩步引領俯仰廊廟束帶矜莊徘徊瞻眺孤陋寡聞愚蒙等謂謂語助者焉哉乎也梁周興嗣撰

楷書千字文 実里書

ようなものが宿っているように感じられてなりません。わたしにとって書道とは、時には酷く悩ませるものであり、またある時には心を慰めてくれるものです。苦しくもあり快さもあるのは、「自己表現」行為の一種だからでしょうか。目的はなくてもただひたすら書道が好きなので、今後も続けていけたらと思っています。

千字文は子供に漢字を教えるために用いられた漢文の長詩で、千字のうち一字の重複もありません。天文、地理、政治、経済、社会、歴史、倫理などの森羅万象を表した千字の道程はとても長いものでしたが、4年間の集大成となるようができたので、改めて書の楽しさを深く感じる事ができました。